

【文献紹介】

発展途上国における高齢化問題

Ken Tout,

Ageing in Developing Countries, Oxford University Press, New York,
1989, 334 pp.

栗 沢 尚 志

1. 近年の発展途上国においては経済成長の低下、特に1次産品価格の急落による農村所得の減少や、政府の社会サービス支出の削減による貧困が増大しており、改善しつつあった児童の保健、栄養、教育水準も近年、逆に低下していることが、世銀の1988年開発報告に記されている。そして、発展途上国における高齢者人口も、先進国同様急速に増加し、例えば、80歳以上の人口数は1980年から2020年までの間に、途上国では377%の増加、特に東南アジアでは408%の増加（先進国では108%の増加）という予測が国連の資料によって既に示されている。本書は、発展途上国における高齢者の現状、従来のプログラムの問題点と改善のための処方箋などを、民間レベルの活動を中心に論じたものである。

2. 本書の内容は、まず高齢化の持つ社会的・歴史的意味が論じられる第1章に続き、第2章では、国連等の国際機関の資料をもとに、途上国における高齢者人口の将来予測が紹介されている。第3章では社会・経済的要因を、第4・5章では地域による高齢化の特徴を各々論じ、第6章では途上国における社会保障制度の現状を述べている。第7・8・9章では、従来の高齢者プログラムの問題点とその効果の評価を、

また、民間および公的なプログラムを実行するための戦略が論じられている。第10章では、高齢女性をはじめ、特に配慮を必要とする高齢者の問題が、そして、最終章では残された課題が記述されている。

3. 導入部分である第1章と第2章においては、次のような諸点が論じられている。高齢者を取り巻く状況を悪化させている原因の一つとして、著者が他章においても度々言及している問題は拡大家族の崩壊である。自らの生活を支えられなくなった高齢者にとって、第一の防衛的役割を持つ存在が家族であるが、先進国文化の流入、自国内の都市や先進国への若年層のimmigrationの活発化、そして都市における居住条件の制約等に伴い、若年層と高齢者の分離が始まっている。それ故、公的な所得保障制度や医療制度が十分導入されていない途上国では、その高齢者の貧困化が顕著な現象となっている。このような途上国における拡大家族の崩壊は、特に中南米において顕在化しており、ペルーにおいては高齢者の58%が家族から分離している。他方、アフリカ、アジア諸国においては（都市と地方では差があるものの）いまだ拡大家族が一般的であり、例えば、マレー

シアでは69%の、フィリピンで77%の高齢者は子世代と同居しているという調査結果を紹介している。先述したように、途上国の高齢者数は今後、急速に増加することが予想されているが、それについて著者は、先進国と異なり途上国の高齢者人口が極めて大きいことに留意すべきこと、また、地方の高齢者においては、男性が女性に比べて多くなる傾向が強いことも指摘している。その理由として、高い産婦死亡率、そして子供の移民のときに高齢女性も一緒に移動するのに対し、高齢男性は農村にそのまま残る場合が多いことを挙げている。

第3章では、人口の高齢化に影響を及ぼす社会的・経済的要因について論じており、それらの中で最大の要因は、若年層の都市や先進国への移民としている。彼ら／彼女らを農村から都市へと移動させる原因としては、①農産物価格は上昇しないにもかかわらず、農耕に用いる機械の価格の上昇、②農地所有者による小作農耕者の締めだし、③開発を可能にするだけの資本が農村にはない、④都市や先進国へ移住した家族や友人とのネットワークが広がり、それに刺激されてさらに移民が増えている等を著者は挙げている。このような都市化や移民が高齢者に及ぼす影響として、①都市移住者は農村においては比較的教育水準の高い者であるが、容易には都市において職に就くことができず、農村に残してきた高齢の親に十分な仕送りをするのができない、②親と子が一緒に都市へ移動してきたとしても、スラムの環境においては高齢の親がその環境に順応することは難しい、③（①に関連するが）インドにおける都市移住者からの送金に関する調査によると、最も頻繁に送金がなされるのが夫から妻へ、その次が、高齢者から若年者へとなり、若年者から高齢者への送金

はあまりなされていないとの調査結果があり、農村に取り残された高齢者への経済的援助はほとんど期待できないであろう、④途上国においては看護婦の社会的地位が低いので、絶対数が不足しているにもかかわらず外国へ移民に出てしまい、国内の医療サービスの提供に支障が生じる、との諸指摘をしている。第8・9章では、著者自身の途上国での経験に基づき、district, metropolitan, nation 各々について、民間と政府が高齢者プログラムを実行するための青写真が示されている。例えば、ボランティア活動による地域の青写真として、その活動の実行順に、①高齢化問題の重大性の認識と徹底と現状に関する調査、②資金調達手段の確保、③独居老人のためのデイ・センターの開設、④訪問介護の実施、⑤公的な所得保障や家族の経済的援助のない高齢者に対する雇用機会の提供、⑥ボランティア・メンバーの教育、⑦高齢者の住居の改善、を論じている。また、公的年金等の社会保障の導入が困難な途上国での戦略の一つとして、高齢者が代替的雇用を見い出せるような小規模産業の奨励が、高齢者の所得維持の目的のみならず、労働力の有効利用や途上国全体の経済発展という観点からも重要であると指摘している。このように、著者は移民を主要因とする大家族の崩壊を高齢者の社会・経済的条件の悪化の主要因として強調しているが、途上国にとっては労働移動による経済的メリットも重要であり、そのような社会的変化に対して、費用効果的な公的プログラムの作成と、その実行が現在求められていると思われる。しかしながら本書は途上国の高齢者問題について有益な示唆と情報を与えるだろう。

（あわさわ・たかし 社会保障研究所研究員）